

三七六七番

魂たましひは 朝あした夕ゆふへに 賜たまふれど 我あが胸むね痛いたし 恋こひの
繁しげきに

三七六八番

このころは 君きみを思おもふと すべもなき 恋こひのみし
つつ 音ねのみしそ泣なく

三七六九番

ぬばたまの 夜よる見みし君きみを 明あくる朝あした 逢あはずま
にして 今いまそ悔くやしき

三七七〇番

味あぢ真ま野のに 宿やどれる君きみが 帰かへり来こむ 時ときの迎むかへを
何時いづつとか待またむ